

学校教育目標の達成に向けた 特別活動の充実

～益田市立益田小学校の実践から～

学校教育目標 × 特別活動
= 子どもも大人もワクワク

しまねの特別活動リーフレット Vol.2 では、益田市立益田小学校の取組を中心に、学校経営や学級経営に特別活動の充実を図っている事例を紹介します。

益小公式オリジナルキャラクター



学校教育目標を共有する

益田小学校では、以下に示す学校教育目標を掲げ日々の教育活動を推進しています。

「なかよく みんなで 未来へ ぐん！」～ 学びに向かい 人とつながり 未来を拓く児童の育成～
「仲良く みんなで」⇒ 多様な人とつながり 協働することができる
「未来へ」⇒ 自分も幸せ まわりの人も幸せ・・・そのような未来を創ることができる
そのような社会の形成者として必要な資質や能力を身につける
「ぐん！」⇒ 仲間との学びを通して成長すること できることを増やすこと 力をつけること

この学校教育目標を職員と子どもたち、保護者や地域の方と共有するために合言葉にしました。

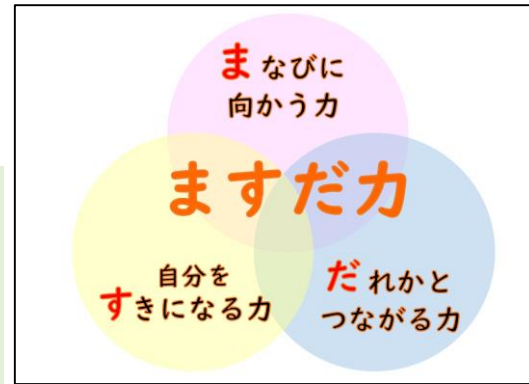
この目標の達成に向けて「どのような力を身につけるのか」を明確にするため、わかりやすい言葉で「ますだ力」（右図）として設定しています。

<参考> 学校教育目標設定の際に踏まえるべき点

各学校において教育目標を設定する際には、次のような点を踏まえることが必要となる。

- (1) 法律及び学習指導要領に定められた目的や目標を前提とするものであること。
- (2) 教育委員会の規則、方針等に従っていること。
- (3) 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。
- (4) 学校や地域の実態等に即したものであること。
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。
- (6) 評価が可能な具体性を有すること。

小学校学習指導要領解説 総則編 (平成29年7月 文部科学省) P47より作成者抜粋



益田小学校では、子どもたちが学校教育目標を具体的に意識できるよう、年度当初に学級活動の時間を活用して学級目標を子どもたちと話し合っていて決めています。

学校教育目標を受けた学級目標の設定の流れ

4月 校長室だより・PTA総会
校長から保護者や地域へ学校経営方針などを発信
保護者の願いをくみあげる

4～5月 学級活動
学校教育目標や保護者の願いをもとに学級目標について話し合い、決める。

5月 学級活動
話し合っていて決めた学級目標を基に個人の目標を決める。

<子どもたち>
決めた個人目標を基に実践し、1月ごとに振り返り、新たな目標を決める。

<職員>
子どもたちへの励まし、助言
学級目標の達成状況確認
→学校教育目標の達成状況確認

POINT

保護者にもこれからどのように学校教育目標と学級目標がつながりあい展開していくかについて説明し、**学校・家庭・地域が連携した取組**にしている。

POINT

「学校教育目標」+「保護者の願い」に「子どもたちの思い」を盛り込み設定。
子どもたちが自分たちで決めることに大きな意味がある。

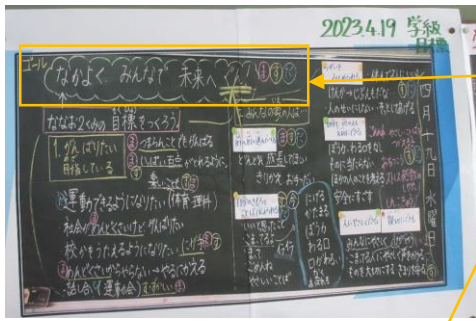
POINT

学級目標は学級全体の目標
それをうけた個人目標の必要性
毎月目標を設定し、キャリア・パスポートの取組を関連付けて実施している。

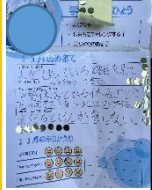
POINT

目標を立てる→実践する→振り返る→改善し新たな目標を立てる
子どもも大人もPDCAサイクルの実現が図られている。

学級目標を子どもたちとつくる



目標を決め、振り返る



学校教育目標をうけ
話し合っで決めた学級目標
「よくきく子」
「じみちにチャレンジする子」
「思いやりのある子」

学級目標をうけたAさんの11月の目標
「よくきく子」

- ・・・人が話しているとき目を見て集中して聞く。
- 「じみちにチャレンジする子」
- ・・・中間休みと昼休みの時九九テストを1～3こはクリアする。
- 「思いやりのある子」
- ・・・友だちとけんかをしない。

学校教育目標

「ななかよく みんなで
未来へぐん！」
～ 学びに向かい人とつながり
未来を拓く児童の育成 ～

まなびに
向かう力

ますだ力

自分を
すきになる力

だれかと
つながる力

Point

今取り組んでいることを意識的につなげる

多くの学校で、学校教育目標は学校の願い、保護者の願い、地域の願いなどをうけて設定しています。

また、学級目標を子どもたちとともにつくることや一定期間（毎月、毎学期）の目標をたて、振り返る活動は、子どもたちの成長を願い先生方がこれまでも大切にされている取組です。

益田小学校では、これらを別々に行うのではなく、**特別活動という視点をもって校長先生のリーダーシップのもと、活動をつなぎ合わせ実践**しておられます。

「特別活動」の充実は、「新しいことにチャレンジする」側面もあります。それだけではなく、「今まで大切にしてきたこと」を見直し、つなぎ合わせ、価値づけを行うことで充実を図ることができます。益田小学校では、それを校長先生のリーダーシップのもと、職員が同じ方向をめざし、子どもたちとともに具現化しています。

学級活動（1）の取組

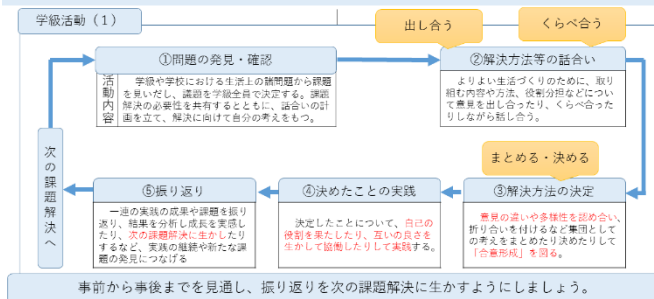
益田小学校では、特に学級活動（1）を重要と捉え、実践しています。

話し合いの様子を掲示として残され、学習の足跡がわかるように工夫をしています。

また、**話し合っで決めたことは必ず実践し、振り返る**ことを大切に取り組んでいます。

子どもたちが「話し合っでよかった」という達成感をもったり、「みんなで解決したい」という思いをもったりするためにも、以下に示す例のように話し合う場面だけでなく、事前・事後の活動もあわせて充実させることがポイントです。

学級活動（1）の学習過程（例）



小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年 文部科学省） P45より作成者作成

「この旗はね。みんなで話し合っで作ったんよ。
みんなの意見が詰まるとんよ。
決めるの大変だったけど。」



話し合いの足跡をまとめた掲示



学級旗を説明する子どもたち

取組から見える子どもや職員の変化

子どもたちの変化

やりたいと思うことを自由に型にとらわれず発信できる子が増えた。

話し合いで決まったことを実践し、学校生活を豊かにしている。

プレゼンテーションの力が高まっている。やりたいことがあるときに、管理職に直接交渉に向かう。

(学校評価の結果から) 自尊感情の数値が高まっている。

職員の変化

子どもにきまりを押し付けるのではなく、考えさせて行動させている。

子どもたちのやりたいことをまずは肯定的に受け止め、なんとかできないか考えている。

対話を重視し、対話を取り入れた会議、研修を計画することができている。

課題

- ・学級会の継続的な実施
- ・年間指導計画に沿った学級活動の展開
- ・クラブや児童会活動の充実

なによりも、先生方が特別活動を楽しんで実践しています。

特別活動の実践を活かして、先生方が「お互いの意見を大切に話し合う」ことを大切にしています。具体的には、研究協議や職員会議、学期末には実践を振り返り、次学期の目標について話し合いながら意思決定する時間などを設定しています。

職員が特別活動の「なすことによって学ぶ」を実践し、その良さを実感しているからこそ、実践者として子どもたちとチャレンジしていると取材を通して感じました。



益田小学校の取組を活かして

益田小学校の取組から

- 今取り組んでいることを活かして、つないでいく。
- 職員室が一つのチーム。お互いに考えを尊重し、協働するチームを作る。
- なによりも職員が特別活動を楽しんで取り組む。

ことが大切だとわかりました。

益田小学校では、右図のように子どもたち発信の取組が盛んに行われています。子どもたちの「ワクワク」を職員も受けとめ、ともに「ワクワク」する場となっています。

皆さんの勤務先の学校にも「ワクワク」する子どもたちの思いや願いがたくさんあります。

その「ワクワク」を子どもたちと一緒に楽しむために、まずは、自校の実践を振り返り「できることから少しずつ」取り組んでみませんか。

今回紹介した取組は益田小学校の取組のほんの一部ですが、ぜひ参考にしていただき、勤務先の子どもの実態を一番大切に、実践していきましょう。

クイズラリー 益田小学校 企画委員会

日にす $\frac{1}{18}$ (木) 木よしカム

時間 12:55~13:10分
 持物物 6年生は自己持ち物(筆記用具)を持参してください。
 集合 自分のようじ土易戸所
 場所 ※外やうじの人は体育館に集合

ルール

- ・そうじの班で自分のようじ土易戸所からクイズをいいます。
- ・うらめははしりません
- ・班がまとまると動きます
- ・クイズは各ようじ土易戸所にあるクイズは全部で25問あります。(外やうじの土易戸所にはありません)
- ・正しい答えを早くたくさんクイズをいいてください
- ・後日せいかいの結果を発表します

※クイズは先生方にしただけでいいです
 おりよめ、このクイズの結果を報告してください
 おりよめ

クイズラリーのお知らせ

